

進捗状況の概要（2 ページ以内）

① 大学改革の加速

看護職キャリアパス基礎スケールが開発されたことによって、九州圏内の赤十字病院との連携の強化が図られるとともに、ポータルサイト導入による学修成果の可視化は、全教職員にとって学生の個別性を重視した学修支援を実現可能にした。また、Good アクティブ・ラーニング賞と公開授業の導入によって、各々の教員が授業改善に意欲的となり、かつ重要な学びの場を得る機会となっている。さらに、これまで本学は卒業生調査を実施していなかったが、本事業によって継続的に実施するようになり、今後も継続的に実施していく礎を構築することが出来たため、本事業によって大学改革は加速的に進行している。

② 事業の実施体制

学内の実施体制は、下図のとおりで、学長が直接管轄する「AP 実行委員会」を置き、月 1 回会議を行い、AP 事業の計画、実施、評価を行っている。また、学内の各委員会の中で特に「教務委員会」「FD/SD 委員会」と連携し、両委員会の委員長は AP 実行委員会の委員であり、カリキュラム・マネジメントでは教務委員会と、アクティブ・ラーニングの促進では FD/SD 委員会と連携を図っている。

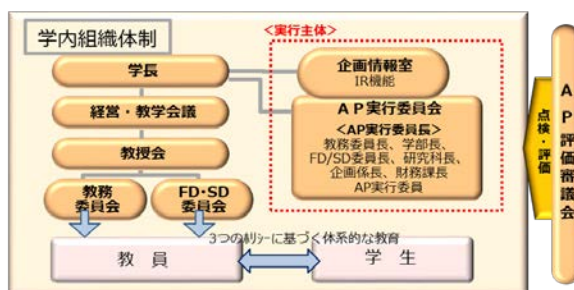


図 学内実施体制

③ 事業の実実施計画・継続性

本事業は、a. 看護職キャリアパス基礎スケールの開発、b. ディプロマ・サプリメントの作成、c. アクティブ・ラーニングの促進、d. アセスメントを実行可能にする評価システムの整備、e. 卒業生追跡評価、これら a. ～e. 毎に実施と修正を加えながら事業を推進してきた。

a. では、AP シンポジウムで看護職キャリアパス基礎スケールを公表し、4 年生に調査を行い前年度と比較を行った。学士課程学生と就職後の看護師に共通指標としての活用方法を検討することを今後の課題とした。

b. では、ディプロマ・サプリメントに対する教職員への周知と理解の促進を図り、学内教員からの意見を踏まえて、在学生対象であるプレ・ディプロマ・サプリメントを印刷可能にし、AA 担当教員が面談で実施できるようにした。ディプロマ・サプリメントは令和元年度に発行し、卒業式に学生本人に渡すために確実な入力ができるための学内の支援体制を整えてきた。

c. では、アクティブ・ラーニングを促進させるために Good アクティブ・ラーニング賞の受賞システムを整備し、今後 FD/SD 委員会と教務委員会で継続するための体制強化が課題であることを明確にした。

d. ではシステム（ポータル）の整備によって、学修支援に活用できるだけでなく、教員が科目を分析することが可能となったため教員向け説明会を実施し周知するまでに至った。科目の最終講義日に科目別到達度目標の自己評価を学生が入力することによって、教員が担当科目の授業設計のための貴重な資料となるのだが入力率が低いため次年度以降も学内での共有化を図り入力率を向上させるための取組を継続する。

e. では、平成 28 年度から卒業生追跡評価を実施しているが回収率が低いため、卒後 3 年目の者に

対してはヒアリング調査を4名に実施した。カリキュラム評価に活用できる卒業生の貴重な意見を得たため、今後とも卒業生調査を実施する上で回収率が向上するための体制や方法の見直しを図ることとし、アカデミック・アドバイザー担当教員（以下、AAとする。30名の担当教員が一人当たり3～4名程度の4年生を担当）経由でアンケートの回収率が上がる方法を次年度は検討する。

a.～e.の課題を達成していくことが重要であり、これまで本事業で進めてきた以下4つのサイクルを機能させることで今後の教育の質保証に取り組むことが可能と考える。

第1に、科目毎の教育評価サイクルとしては、科目担当教員が、「シラバス作成」→「授業の実施」→「科目の自己評価表を記載」→「改善点を次年度シラバスへ活かす」サイクルとなっている。科目毎の評価は、これまで成績評価と学生からの授業評価アンケート等を踏まえていたが、本事業により「科目毎の到達目標に対する学生の達成度自己評価」のデータが入手可能となり、到達目標の達成度を把握し、目標の妥当性なども含めて授業設計の改善につなげられる。

第2に、教員間の教育評価サイクルとしては、先述した「科目の自己評価表」を基に、授業設計の知見を学内で共有する仕組みである。具体的には、アクティブ・ラーニング実施状況（授業形態や具体的工夫）を各教員が「自己評価表」に記載し、策定した選定基準により「Good アクティブ・ラーニング賞」を選出する。受賞科目は、次年度に公開授業の機会を設け、授業改善や授業設計等を学内で共有することとしている。

第3に、学生と教員が共有できる「学修支援ツール」として、プレ・ディプロマ・サプリメントを活用する。

第4に、これまで学内に留まっていた教育評価を、就職先や卒業生等外部評価を加えたカリキュラム評価として実現する。卒業生調査は開始しているが、「看護職キャリアパス基礎スケール」の活用やディプロマ・サプリメントの提供による就職先からの意見等は今後の計画となる。

④ 事業成果の普及

長期的に見て成果の出る取り組みとなるように、最終年度に向けて学生支援委員会委員長、実習委員会委員長にAP実行委員会メンバーとして参加してもらうことを検討している。これによって、継続的な卒業生調査を実施する体制を整備する。更には、キャリア支援及び同窓会担当でもある実習委員会委員長が新メンバーに加わることによって、卒業生の状況について病院看護部と大学との情報の共有化が促進されるものと期待している。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

平成30年度APシンポジウム「専門職のためのディプロマ・サプリメントー基礎教育と現任教育のシームレスな接続をめざしてー」では、各大学のディプロマ・サプリメントを学び、参考にしながら、ディプロマ・サプリメントを卒業時に渡すことに留まらず、在校生にプレ・ディプロマ・サプリメントとして渡す発想を学び、学内教員からも支持を得ながら取り入れることになった。また学修成果を可視化するための支援ハンドブックに関するアイデアを参考にし、学生が学修成果を自分で記入することによって、入学から卒業までの学修成果の可視化が確実にできるためのシステム強化を行っていく。